



子どもたちの生きていく世界を 持続不可能にしかねない多くの課題

この世界では、どのような教育を
進めればよいのでしょうか。

それを考え、取り組むのがSDGsであり、
その中心にあるESDです。

**ESDの推進こそ、
学校教育の使命です。**

これができなかつたら、日本の学校に存在価値はありません。

コロナ禍でもわかるように、1つの問題があつという間に
世界規模に広がり、しかも、多面的な広がりをもちながら、
持続不可能な世界を創ってしまう。

旧来の枠にとらわれた学問、あるいは研究・開発のあり方

では、対応が不可能になっている。世界で起こっている

問題に対して、広い視野をもち、国境や分野を越えて横断

的に連携していく視野や、資質や能力が求められている。

少しずつ成長する
穏やかな社会 → 激変の時代
グローバル化の時代

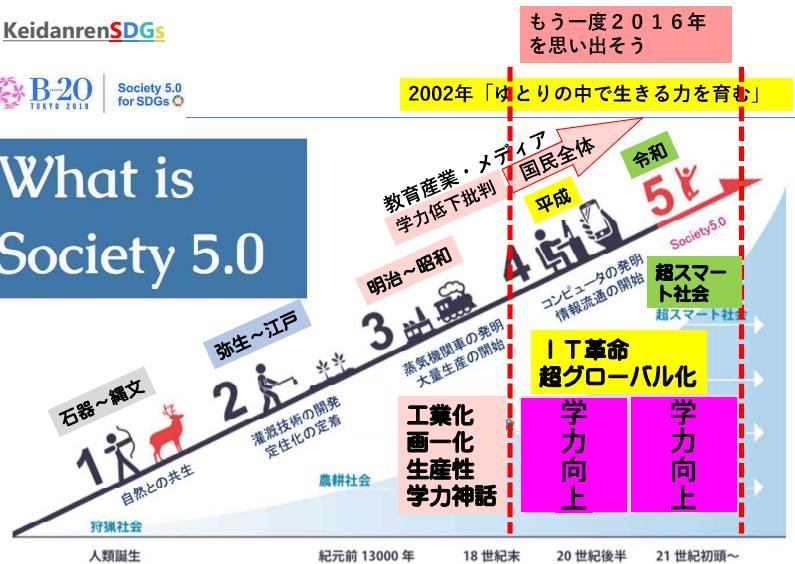
規格化・画一化の時代 → 個別化・多様化

正解のあつた時代 → みんなが納得できる
解をつくる時代

20世紀型教育
This is a pen.
記憶力・情報処理力
が問われていた

21世紀型教育
Pen, pineapple, apple, pen
情報編集力

What is Society 5.0



教育課程の編成において

(総則 第1の4 第2の1)

①教科横断的に学ぶ

(カリキュラム・マネジメント)

教育課程の実施において

(総則 第1の2、第3の1)

②主体的・対話的で深い学び

に向けた、単元を通じた授業改善《探究的な学習過程》を通して

思考力・判断力・表現力、学びに向かう力や人間性

2020年度から始まってる
のに、各校の教育課程に
あまり、書かれてない！

日本中の学校でカリキュラム・マネジメントが
きちんと理解されていない！

「マネジメント」という言葉が災いして、
「働き方改革」や「業務の効率化」だと
間違えた解説のために、
教育的価値のないものと見なされ、各校で
取り上げられていないからと思われます。
働き方改革に取り組んだって、子どもたちが
賢くなるわけではありません。

本当は、地域の教育力をも取り込んだ教科等
横断的「カリキュラムをマネジメントすること」
なのです。

・総合的な探究(学習)を教科横断的に進めることなのです。

文部科学省学習指導要領解説
「学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

基本の考え方

カリキュラム・マネジメントとは

「教育課程を中心に」教育課程をつくるのか？

「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと

何をどうやるのか、伝わってきませんね。本当は、

「総合的な学習の時間を中心に、教科等の学びを

横断的に関連づけた教育課程を創ることと示すべき。

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる

これは側面ではなく、
真髓です。

学校教育の効果を常に検証して改善する

地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

カリキュラムをマネジメントすることとは

従来、教科・領域ごとに指導してきたを内容を

特別活動
特別の教科 道徳
外國語

各教科

生活科
総合的な学習の時間



PPAP



深い学び

を創ること

第6学年 「未来にはばたけ」学習カレンダー

江東区立八名川小学校

教科領域	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	① SDGsの視点から未来について、自分の考えをもつ			未来がよりよくあるために						
算数				⑤ これからの日本について考える						
理科										
社会	② 戦争中の生活や人々の願いを知る		長く続いた戦争と人々の暮らし	新しい日本、平和な日本へ		⑧ 世界の現状を見つめ自分の生き方・学び方について考える				
総合	③ 将来の夢について考え自分を見つめる			未来にはばたけ！	世界が100人の村だったら					
英語	⑥ 自分になりたい職業を選び、実現への道筋を調べる		八名川まつり		⑦ 調べたことを地域・保護者に発表する					
社会	④ 将来の自分の姿を想像し立体作品を作る		12年後の私							
家庭										

カリキュラム・マネジメント
従来の教科分断的な発想から、教科横断的な発想への飛躍が必要！

環境の教育 多文化理解 人権・命の教育 学習スキル

環境の教育

国際的な協力

環境の問題は自分たちだけが取り組んでもダメです。国際的な協力のシステムが必要です。

持続可能な世界のための4つの視点 教科・領域の学びをつなぐ視点

人が人として生きていくには環境が重要です。
この4つの視点は、相互に関連し合っているのです。

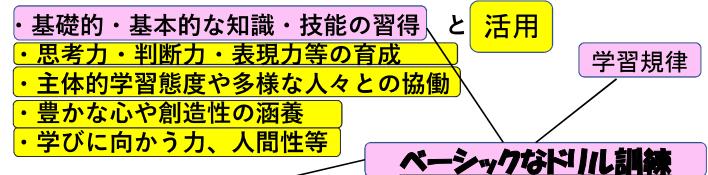
国際的な協力のためには、お互いの国の文化や生き方を尊重できなくては、協力なんてできません。

いろいろな国の文化や生き方を知る土台には、人間として尊重し合う信頼関係が大切です。

人権・命の教育

多文化の理解

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて 授業改善



などが、どうしたら自然に身についてくるの。
詰め込み教育をすると主体性も、豊かな心も育ちにくい。

同時に

ESDカレンダーを工夫して、
その中で学習をつなげカリ
キュラム・マネジメントする
ことで、活用能力を高める。

問題解決的な学習過程を重視
して、その中に、対話的な
協働場面を位置づけることで
問題解決能力を高める。

主体的・対話的な学習過程

【学びに火をつける】 → 【調べる】 → 【まとめる・実行する】 → 【伝え合う】

単元全体に関わる大きな問題意識を共有することが重要。目標に向けて、教師の仕掛ける能力が成長を分ける。下に示した「火をつける3つのステップ」を意識して指導する。

「計画する→調べる」というステップ。予想を立て、何時間で、どんな方法で、だれに聞いて、どこに行って、どうやって調べるか、どのようにまとめ、それを誰に伝えるなど

ポートフォリオ等を活用しながら、効率よくまとめる。発表練習では、助言カード等を活用する。友達と練習の交流をさせることで、説得力のある結論が導き出せる。

○○報告会、八名川まつり（ESD学習まつり）など、子どもたちが、学年や学校・地域を越えて発表したり、行動したりする場を設定する。自ら考えたことを進んで実行させる。

教えるだけの教師は時代遅れ！
先生方、子どもの学びに火をつけましょう！



『子どもの学びに火をつける』際の3つのステップ

①

<問題に気づかせる>

②

<火をつける>

③

<テーマを決める>

1) 体験活動や提示資料をもとに基本的な事実と出会う
2) 体験したり資料を見たりしたことから、多様な気づきや感想などをもち、それを共有する

3) 教師が提示したり、子どもが調べたりして出合った矛盾する事実や意表をつく話や資料等から疑問を感じ、書き出す

4) グループや学級全体で疑問を出し合い、分類・整理してまとめ、学習問題をつくる
5) 問題について、自分なりの予想をする

親しみ・憧れ・共感

それらをひっくり返す

疑問から学習問題へ

『AI時代の教育と評価』教育出版(株)より

プロジェクト学習の活動プロセス

フェーズ	活動	特にこだわること
準備	目的の現実や状況を見て課題を見出す。また材料を収集する	<input type="checkbox"/> 自ら課題を見出す力 <input type="checkbox"/> 現実を観察して、経営的にとらえる力 <input type="checkbox"/> 社会の現状を知りうる姿勢

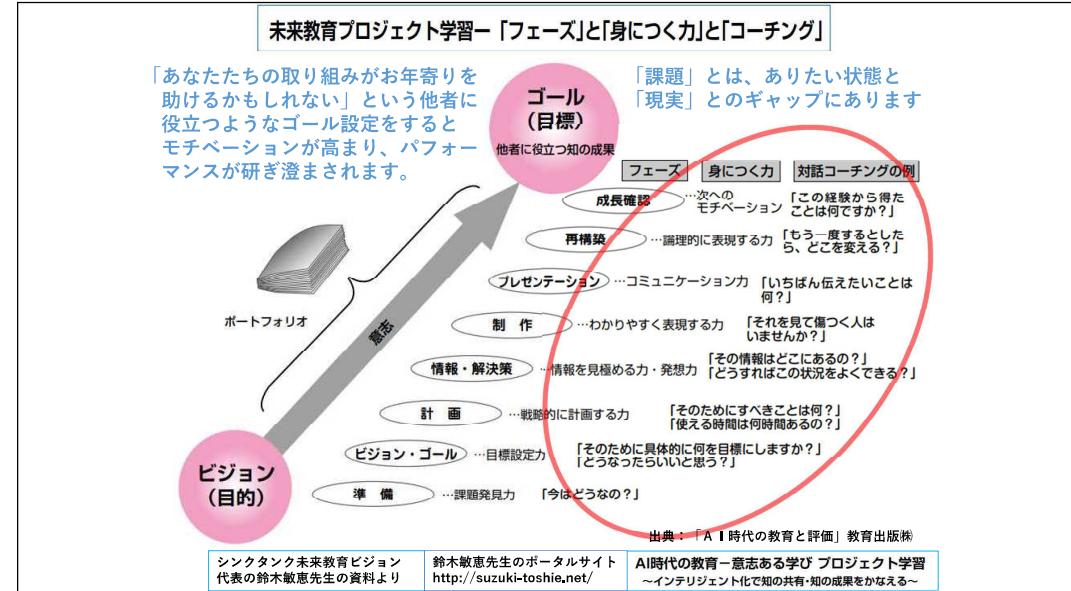
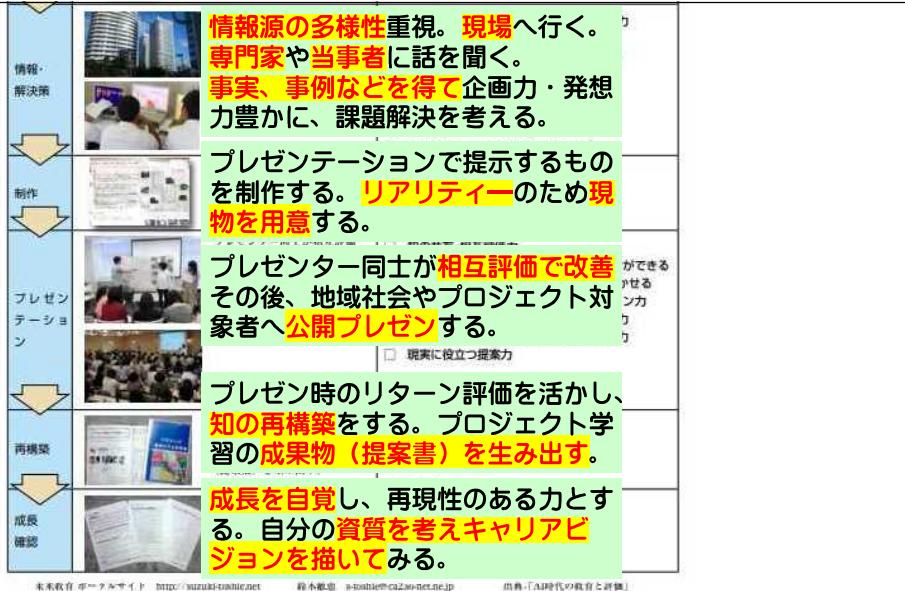
今回、中学校や高等学校の参加者が多いので、プロジェクト学習の素晴らしい学習過程例を紹介します。



目の前の現実や状況を見て課題を見出す。基本情報を獲得する。ネットだけでなく現地へ行く、人と会うことが必須。

プロジェクトのビジョンを描き、ゴールを明確にする。同じ課題意識でチームを結成し、話し合い、チームの目標を決める、ビルディングチーム

目標達成のために、これからすべきことを考え、戦略的な計画を立てる。チームの役割、

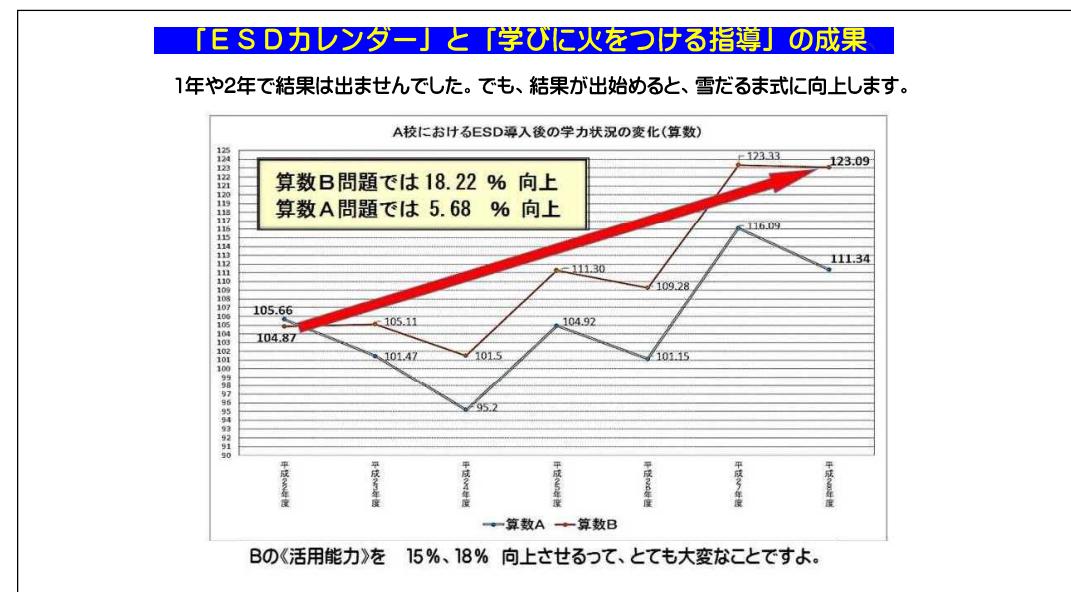


楽しく発信する場を用意する

第7回八名川まつり発表内容

令和元年の八名川まつりESDパワーアップ交流会は、10月19日（土）。児童の発表内容・研究交流の時程等は、江東区立八名川小学校ホームページからご確認ください。

15 飲食店をもつくり	1年 秋のおもちゃの店 ドングリやまつぼっくりで楽しもう	
9 おもちゃを販売するおもちゃ屋さん	2年 うごくおもちゃ大しゅう合 ゴムで、風で、坂道で・・・いっしょにあそぼ！	
11 町の史跡や道具を調べて語ります。	3年 八名川タイムトラベル 町の史跡や道具を調べて語ります。	
3 すべての人に 健康と暖を	4年 やさしさパワーアップ大作戦 妊婦さん・外国人・お年寄り・・・	
11 おもむけあわせ おもむけあわせ	5年 今やろう！ 地震から身を守る備えを！ 保護者や地域の方と備えを語る	
8 健康いじ 健康いじ	6年 未来にはばたけ！ ～小学校卒業研究～ キャリアの視点から待機設計と学び方を語る	



学力以外での児童の変化

- ① 学習全般に対する積極性が高まる 意欲
- ② 子ども同士の人間関係が穏やかになる 信頼
対話
- ③ 誰の意見に対しても尊重し、聞き合えるようになる
- ④ 大人に対する信頼感が高まる 信頼
- ⑤ どの学年もプレゼン能力が飛躍的に高まる 表現力
主体性
- ⑥ 全校集会など、児童の活動が主体的になり、質も向上
遊びの質の向上
- ⑦ 高学年が頼りになる 自覚

教員の変化 、保護者や地域の変化

- ① 子どもを怒鳴りつけるような指導が影を潜め、
指導法の改善
- ② 子どもの学びに火をつける工夫をしようとする
- ③ 的確な指示・説明や称揚が増える 指導力の向上意欲
カリキュラム・マネジメント
- ④ 前年までの指導を共有・改善し、授業を進化させる
- ⑤ この学校で働けることに誇りと喜びを感じる
- ⑥ 保護者アンケートが感謝の言葉で始まるようになった
開かれた教育課程づくりへ
- ⑦ 保護者・地域は参観から参画へ、そして協力者へ

校長として気をつけていたこと

- ① 学校の最終責任者は校長 (問題から逃げない)
- ② 自分と異なる意見の教員の声にこそ、耳を傾ける
- ③ 教師を委縮させるような指導をしない
- ④ ESDの視点から教育課程全てを職員とともに見直す
- ⑤ (児童) SDGsまつり・(職員) ESD実践交流会の継続
- ⑥ 職員に名刺を作って持たせる(開かれた学校の基本)
- ⑦ 学校とESDの営業に徹する



ところでみんな…、

この中で、学校教育を変えられる、
素敵な大人って、だ～れ？

先生たちは、教育委員会は、政治家さんは、
子どものためにと言いながら…

「学力向上」や「知・徳・体」にしがみついて
いつまで、
時代遅れの教育を引きずっているの？